

製品名: UFD1L マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM81717**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2b
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	34.5kDa

抗原情報

遺伝子名	UFD1L
別名	UFD1
遺伝子 ID	7353.0
SwissProt ID	Q92890
免疫原	大腸菌で発現したヒト UFD1L (AA: 208-307) の精製された組み換え断片。

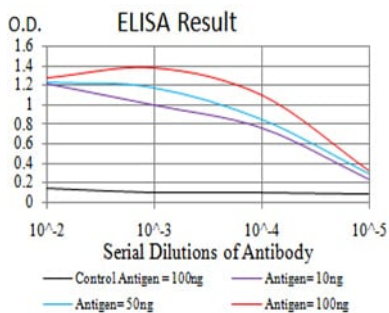
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、核タンパク質局在化タンパク質 4 (nuclear protein localization-4) およびバロシン含有タンパク質 (valosin-including protein) という 2 つのタンパク質と複合体を形成し、この複合体はユビキチン化されたタンパク

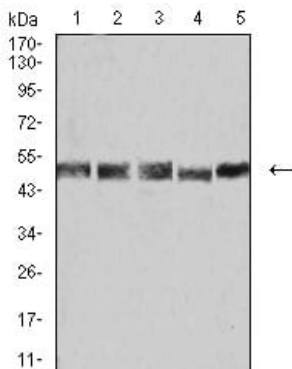
質の分解に必須である。さらに、この複合体は有糸分裂紡錘体の分解と有糸分裂後の閉鎖核膜の形成を制御する。この遺伝子の変異は、キャッチ 22 症候群、心臓および頭蓋顔面の異常と関連付けられている。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生じる。関連する偽遺伝子が 18 番染色体上に同定されている。

研究分野

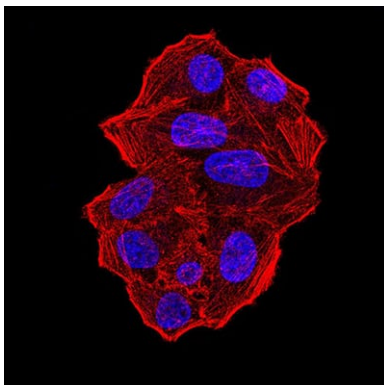
画像データ



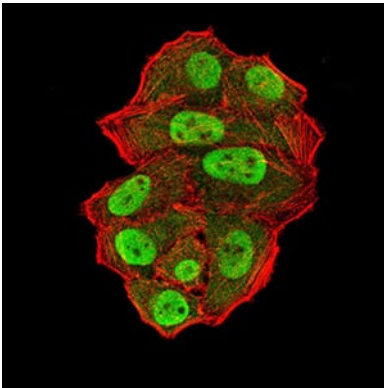
黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



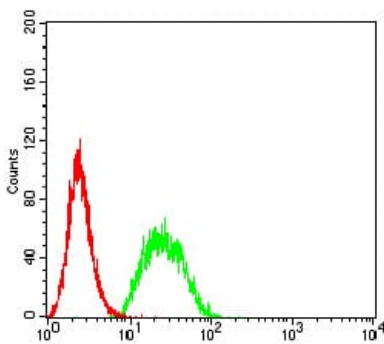
K562 (1) 、Hela (2) 、A431 (3) 、PC-2 (4) 、および A549 (5) 細胞溶解物に対する UFD1L マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。



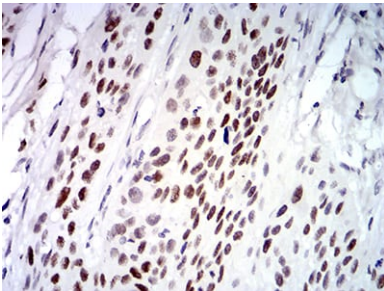
UFD1L マウス mAb を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識したアクチンフィラメント。



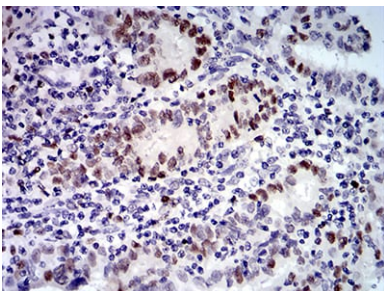
UFD1L マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



UFD1L マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (赤) を使用した HeLa 細胞のフローサイトメトリー分析。



UFD1L マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト食道癌組織の免疫組織化学分析。



UFD1L マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト子宮内膜癌組織の免疫組織化学分析。